

2021年 政権選択の年 政治の流れを変えよう!

単会・会員のみなさまには
コロナ禍の新しい年をどのよ
うに迎えられるでしょうか。
高齢者には感染リスクが高い
ことから通常の生活がままな
らず、友人、仲間との対面交
流もできず、不自由な生活を
余儀なくされていることと思
います。

菅政権はコロナ感染拡大防
止、抑制に公助としての政策
は何も示さず、「マスク、手洗
いと3密を避けて」を繰り返
すばかりです。自助の名のも
とに個人に責任を押し付けて
います。「生命」「人権」「経済」
どれをもないがしろにできま
せん。しかし、あまりにも「今
の経済」に比重がかかりすぎ
ていないでしょうか。やらな
きゃいけないことをやってこ
なかつた結果、命が危険に晒
されています。医療提供体制
が危機に陥っています。大阪
府知事の「トリアージ」発言
などが出てくることになりま
す。日本学術会議会員任命拒

否問題をめぐっては、菅首相は答
弁を二転三転させています。いず
れにせよ、「学術」を政治の支配
下に置くための権力行使にほかな
らず、大きな問題です。1月22日
に核兵器禁止条約が発効しますが、
自公政権は批准しようとしません。
今年には衆議院選挙が行われます。
ウソ・誤魔化しの自公政権。極端
に進められた「新自由主義的」政
策を変えましょう。日本学術会議
への支出「わずか」10億円につい
てはあれこれ言い、その一方、辺
野古新基地建設などには莫大な予
算をつぎ込んでいます。敵地攻
撃能力の保有など、憲法をないが
しろにした政策に税金を使うので
はなく、医療や介護、福祉政策の
拡充のために国の予算をつかう政
治、憲法13条や25条を実現する政
治を求めましょう。

本年も平和な、命の保証される
社会をめざして各単会・会員の
みなさまとともに運動・交流にとり
くみます。よろしくお願いいたし
ます。



こが
古賀ちかげさん

2020年11月30日に行われた日教組第163回
中央委員会は、第26回参議院議員通常選挙
(2022年予定)の日政連参議院議員候補予定
者として古賀千景さんを決定しました。
詳細は次号以降に随時掲載します。

今年も一緒に頑張りましょう

日本退職教職員協議会

- 会長
竹田邦明 (神奈川県)
- 副会長
苅屋重信 (北海道退)
本村富美子 (東京高退)
坂田 勲 (富山県退)
吉田順子 (兵庫県退)
太田孝治 (大分県退)
- 事務局長
平岡良久 (東京高退)
- 事務局次長
松淵 昂 (岩手県退)
- 会計監査
村山恵美子 (千葉高退)
北村 環 (広島高退)
福井英利 (徳島県退)

2021年1月

日本退職教職員協議会

No. 394

2021.1

日本退職教職員協議会
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋二一六―二 日本教育会館5F
発行責任者 竹田邦明
TEL 03(5)275-2197 FAX 03(5)275-2081
E-mail nitaikyoyo@gmail.com ホームページURL http://www.nitaikyoyo.com

いまこそ憲法理念を 大切に 大切にする社会を

第57回護憲大会

日本国憲法が公布され74年、自民党はこのコロナ禍にあっても、いや、このコロナ禍を利用して、何とか憲法を変えようとしています。

11月7日・8日、滋賀県大津市・びわ湖ホールで、「まもろう、平和と人権！すすめよう、民主主義と共生！憲法理念の実現をめざす第57回大会（滋賀大会）」（第57回護憲大会）が開催されました。新型コロナウイルス感染が終息していないことから、今回は平和フォーラム参加者を絞り、関係団体代表参加とオンライン中継の活用という形式での開催となりました。私は地公退から参加しました。



開会総会では、特別報告として「敵基地攻撃論と日米軍事同盟強化」をテーマに、飯島滋明さん（名古屋学院大学教授）、前田哲男さん（軍事評論家）、半田滋さん（防衛ジャーナリスト）からの提起をビデオ形式で受けま



11・3大行動

した。今年6月、突然配備計画を停止したイギリス・アシヨアは「本当に日本防衛のために、防衛の専門家が議論して決めたものか」というところから話をはじめ、「2017年、トランプ大統領が就任してすぐの2月に、安倍首相（当時）が訪米し、首脳会談をやって、そこでアメリカ製武器の大量購入を迫られた」結果、購入を決めたもので、半田さんからは「日本の防衛に必要なものというわけではなく、安倍首相の政治案件だ。これを押さえておかなければいけない」と。1兆円に上る爆買いです。しかしそのあとすぐに、敵基地攻撃能力を持つ（自民党は以前から要求）ということになって概算要求にも盛り込まれました。この「敵基地攻撃能力を持つ」とする動きについて「安保法制の下での敵基地能力はアメリカのために手を出す日本になる」（飯島）危険性が指摘されました。

メイン企画のシンポジウムは「新型コロナウイルス感染症と日本の人権状況」。杉浦ひとみさん（弁護士・「コロナ禍での女性の人権」、飯島滋明さん（名古屋学院大学教授・「コロナ禍と人権、緊急事態条項」）のコーディネ

ネートのもと、パネリストとして鈴木雅子さん（弁護士・「外国人の人権状況」、宮子あずささん（看護師・「現場からみた新型コロナウイルスと人権」、河かおるさん（滋賀県立大准教授・「コロナ禍と外国人学校」）が登壇、ディスカッションが行われました。

翌8日は憲法課題をめぐる課題について、滋賀における多文化共生のとりくみ、水俣病の解決をめざすとりくみ、女性のおかれた現状について、そして沖縄現地の情勢を、映像を活用して報告を受けました。

政府の行ってきた感染症「対策」は経済にばかり目を向けていて、とりわけ弱い立場にある人びとの苦しい現状になどまるで眼中にありません。また、自民党内部では、この危機を利用して憲法への緊急事態条項の新設をすすめるという動きまであります。コロナ禍での人権状況については、日退教通信前号でも神奈川新聞石橋記者の寄稿を掲載しましたが、本当に危機的な状況です。

大会の様子や動画はユーチューブで見ることができます。「第57回護憲大会」で検索をしてみてください。（竹田邦明）



11・3大行動

今年も辺野古に行ってきました！



11月3日～5日都高教退職者会9人で、辺野古座り込みに参加してきました。

4日は水曜日なので、ゲート前の指揮は平和市民連絡会という市民運動の集まりで、司会は女性と決まっています。午前は高里鈴代さんでした、高里さんは「昔に期待するものは何もないし、この基地を造ることは出来ない！」そして仲井真元知事の叙勲を「辺野古のご褒美」と激しく怒っていました。私も去年の天皇の代替わり、恩赦、今年の立太子の儀式、叙勲

など国民を序列化する天皇制の行事が本当に嫌なので、共感して聞いていました。

ゲート前に座り込み、トラックやミキサー車が出て来ると、機動隊は私たちに「立ってください！」と説得に来ます。私たちは何回か機動隊の説得を聞き、ぐずぐずと「腰が痛い！」などと言いつつ、自分がしっかりと座り込んだ意思を確認して、ゆつくりと立ち上がります。これはコロナで機動隊に密に接触されて運ばれることで、万が一の感染を避けているからです。高齢の女性は「ゲート前とスパーにしか行かない。もしコロナに感染したらみんなに迷惑をかけるから…」とコロナ禍の緊張と日常生活の自粛を言っていました。そして車列が切れるとすぐにゲート前で、マスクをしたまま、シユプレヒコールしながらデモをして歌います。

5日(木)のゲート前は集中行動日だったので、県議もかけつけ、100数十人でした。これだけいると皆も元気が出るし、排除も時間がかかりません。安和と塩川では同時に碎石の搬出阻止の闘いがあり、3ヶ所の闘いを維持するのは大変ですが、皆さん本当に頑張っています。

またテントの中では「沖縄振興」について考える・という学習会がありました。琉球大学の亀山先生の話は「基地やデイズニランドを作るのが振興ではない！沖縄の自然環境を守り、農林水産業と文化を振興させる中で、様々な社会問題を解決していく。今沖縄は高い貧困率、雇用や労働条件の悪さ、子どもや女性の貧困や無権利、平均寿命の低下、アルコール、ギャンブル薬物依存、公共交通問題などを抱えている。基地がこれらの問題を解決する時間とチャンスを奪っていることが、基地被害ではないか」というものでした。

また「那覇の軍港を返す代わりに、浦添に新軍港を作れ」に對して、地元は反対運動に立ち上がったことも話されました。

東京にいと辺野古の厳しさばかり伝わってきます。確かに抗議をしている皆さんは高齢で、病気を抱える人も生活の中に闘いがあり、厳しいです。一方、ダンブカーやミキサー車は新車が増え、沖縄の土木関係者にどれだけお金が落ちているかわかりません。でも闘う人たちは相変わらず「基地はできない」確信と希望を持っています。そして優しく温かくて明るいんです。ゲート前ではノリノリで歌う女性達や身体に貝殻をくっつけたパフォーマンスをするジュゴンのようなおじさんもいて、皆芸達者です。沖縄が芸能の島であることを感じます。

私も「この工事はいずれ破綻する」と確信し、それは今ではないけれども、破綻させる日まで沖縄の人たちと一緒に楽しく闘おうと思えました。エネルギーと元気をもらって帰ってきました。

(都高教退職者会・本村富美子)



ご協力ありがとうございました
2020年度 闘争カンパ・7月豪雨カンパ

12月4日現在

闘争カンパ

豪雨カンパ

本の紹介

何故日本人戦犯と戦犯管理所の職員たちは、敵から友になったのか。撫順戦犯管理所に収容されたおよそ日本人1千名の釈放。一人も死刑なし。歴史の真実を語る金源所長の回想録。日本の侵略を学ぶのに役立つ。翻訳者の中川寿子さんは都高退の会員です。



2020年6月発行 桐書房 2000円

単会名	月 日	金 額	単会名	月 日	金 額
繰越金		2,087,153	新潟県退	4月6日	306,335
福岡高退	4月13日	75,000	北退教	6月1日	5,000
北退教	6月1日	5,000	兵庫退	7月13日	245,637
兵庫退	6月16日	103,324	長崎退	8月14日	15,000
広島県退	6月22日	4,000	栃木退	8月20日	10,000
利息	8月15日	9	広島高退	8月20日	50,000
青森退	8月31日	14,000	福井退	8月24日	20,000
秋田退	9月14日	5,000	滋賀退	8月26日	10,000
山梨退	9月15日	10,000	石川高退	8月27日	20,000
愛知退	9月15日	50,000	山梨退	8月27日	30,000
群馬退	9月25日	10,000	愛知退	8月31日	100,000
千葉県退	9月25日	10,000	神奈川高退	9月23日	10,000
鹿児島高退	9月28日	30,000	群馬退	9月25日	15,000
富山退	10月1日	10,000	千葉県退	9月26日	40,000
都高退	10月21日	50,000	鹿児島高退	9月28日	50,000
滋賀退	11月6日	10,000	富山退	10月1日	20,000
石川高退	11月9日	21,100	鳥取県退	10月5日	10,000
大阪退	11月18日	30,000	沖縄県退	10月20日	409,000
千葉県退	11月18日	10,000	静岡退	10月29日	44,000
北退教	11月26日	26,000	茨城退	10月30日	25,000
福岡県退	11月27日	200,000	沖縄高退	11月19日	50,000
新潟高退	12月1日	49,670	大分高退	11月26日	106,000
広島高退	12月3日	70,000	北退教	11月26日	53,475
個人	12月4日	1,050	福岡県退	11月27日	500,000
小計		2,881,306	小計		2,144,447

支出は、2021年3月末の報告をします。

◆編集後記◆

友人が、定年まで3年を残して辞める決心をした。現場の忙しさがますます熾烈になってきているのは承知の上でも少し頑張ればと言ったが、休校で気力が萎えたと言う。

6月に学校が再開されたものの半数ずつの登校で、午前午後、職員総出で消毒作業。一カ月ほどで全校登校に切り替わったが、椅子・机・電気のスィッチ・扉等を消毒する作業は継続。授業中学生徒は勿論、教員もマスクを着用。昨今は職員室でもマスクをして、教員同士の私語も少なくと要請されるらしい。今年の3月の卒業式は保護者・在校生の出席無し。呼名はしたが返事はせずに演台にも進まない。体育関係の授業や行事はマスク着用の強制はないが、スポーツ大会や体育祭は縮小、文化祭も部活関係の発表・展示のみ……。

授業の遅れは勿論悩みだが、修学旅行を含む行事が次々に削られ、またそれにほっとする職場の雰囲気もあるのがたまらないと言う。

安部前首相が「3月2日から全国の小中高、特別支援学校の臨時休校」を突然発表したのが2月27日。「春休みの前倒し」という文科省の代案も顧みず、「私の責任でやる」と強行した。現場の大混乱を無視し、「政治判断」として断行した根拠は何だったのか。

「森友・加計問題」は勿論、「桜を見る会」の追求もこの休校問題で腰を折られた感がある。まさかそれも計算して……ということはあるまい。しかし国会での先の答弁とは違って「桜を見る会」の前夜祭費用の一部を実際に安倍氏サイドが補填していたとの報道を聞くと「下衆の勘繰り」だと一蹴は出来ないだろう。(R)